

用語集・植物の見分け方のコツ

1年草：種から芽生えて1年以内に

枯れる草のこと

多年草：何年も花などをつける草。

球根や根が生き続けるのも含む

草本：草質のやわらかい茎を持つ植

物のこと。木部があまり発達せず木

本のよう大きくならない

木本：木質の茎を持つ植物。樹皮の

内側が成長して幹が太くなり、年輪

ができる。ただし熱帯では常に成長

するので年輪はできにくい

常緑：1年中緑の葉をつける

落葉樹：冬前に全ての葉が落ちる樹木

林縁：林のふち。林と草地などの境界部分

先駆植物：植物が生えていない裸地

にいち早く育つ植物のこと。成長が早く栄養が少なくて育つ

矮性：生物の一般的な大きさよりも

小形なまま成熟する性質

在来種：その土地にもともと分布(自生)する種

外来種：外から持ち込まれた種

帰化：外から持ち込まれた種が野生状態で繁殖すること



植物の見分け方のコツ

よく葉っぱを観察する。



花や実はわかりやすいが時期が限られる。

宮古は3~5月に花や実がよく見られる。

五感で観察

★ 目で見る

★ 鼻でかぐ

★ 手でさわる

★ 耳できく

★ 口で味わう

※有毒なものもあるので、必ずおとなといっしょに観察しましょう

来間島散策コース(海岸林)

かいがんりん かんきょう
海岸林の環境

砂の移動がほとんどない安定帯は、背の高い木々が育ち、海岸後背林と呼ばれます。来間島の北海岸は、断崖の斜面の広い範囲にわたって、良好な海岸後背林が発達し、宮古島市の指定天然記念物(保護区)「来間島断崖の植生」(1979年指定)にもなっています。断崖付近の植生は、環境別に分ることができます。切り立った崖面を覆っているのは、約75%がガジュマルです。斜面地は、オキナワシャリンバイやオキナワトベラ、リュウキュウガキなどで覆われます。崖下は転落した岩々が目立つ肥沃な土壤で、クロヨナの群落が発達しています。

来間島散策コース(海岸林)



海岸林の環境で見られる植物

ゴータギー



モモタマナ

はんらくようこうぼくかじつ
半落葉高木。果実
はオオコウモリが
よく食べる。昔は
むかしの肥料にした。種は
み実をわって中の白
い部分を食べた。



ウカバギー



クロヨナ

オオクサボク
(ウドノキ)

スサンキギ



マルバチシャノキ

ヤエヤマアオキ
(ノニ)

じょうりょく
常緑高木。防風・防
じょう
潮として植えた。畑
ざい
材ですぐ折れるの
で、クサボク(草木)
という名がついた。
み
ねば

落葉小高木。ざらざ
らした葉は、鍋など
を洗うタワシにし
たり、床掃除や髪を
とかすのにも使用
した。



ハスノハギリ



トゲカズラ



エビヅル

カニウギー



ヤブラン

そらほん かいりょう
多年生草本。改良し
た土地の土止めと
して植えられた。

オキナワ
ティカカズラ

サクララン

アリマ
ウマノスズクサ

フニグチモダマ



ホウライカガミ



東平安名崎散策コース(岩礁・風衝地)

距離:約1.1km 所要時間:徒歩約15分



常緑低木。昔は水中眼鏡の材料にしたり、生でも燃えるので漁師が薪に使っていた。盆栽によく使われる。

イムポーギー



テンノウメ

沖縄県RDB:絶滅危惧Ⅱ類
環境省RD:絶滅危惧Ⅱ類
宮古島市保全種

常緑矮性低木。這うように生え、マット状の群落をつくる。東平安名崎では最大級の群落が見られる。盆栽用に盗掘され数が減っている。

ギスキ



ハチジョウススキ

多年生草本。葉が厚くて広く、トゲがないので手を切ることはない。まとまった群落を東平安名崎で見ることができる。

岩礁・風衝地の環境

宮古諸島の海岸の大部分は、波などで削られてできた崖を含む石灰岩の岩礁です。土がほとんどなく、波しぶきがかかり、台風で海が荒れると海水をまともにかぶるため、植物たちは岩のわずかな隙間に根を張り、塩分にも耐えています。また、強風が当たり続ける場所では、樹形が陸側へ撫でつけられたように変形したり、普通よりも小さく育ちます。そういった作用を風衝作用と言います。

東平安名崎は国指定の名勝としても有名です。岬の一帯は亜熱帯地方の風衝地特有の植物群落が発達しています。なかには分布が限られている植物もあるため、植物群落そのものが県指定の天然記念物になっています。



踏み荒らさないように気をつけましょう

足元には、小さくて貴重な種がたくさん生えています。むやみに茂みに立ち入らないようにしましょう。



がん しょう かん きょう み しょく ぶつ

岩礁の環境で見られる植物



イソフサギ

多年生草本。潮のかかる岩の割れ目に表面をふさぐよう生える。



ナハエボシグサ

常緑ほふく性草本。赤い小さな花が咲く。コウライシバの中に混ざってよく見ることができる。



ミルスベリヒュ

多年生草本。茎や葉は肉厚。ボロボロになるまで洗い、味噌汁に入れたり、炒めたり茹でたりして食べた。



イワタイゲキ

多年生草本。蛍光色の花が特徴的。切り口から出る乳液は触るとかぶれるので注意。



イソマツ

多年生草本。古株や大きい株は幹が木質化し、その質感が松に似ていることから磯の松と名がついた。



コウライシバ

多年生草本。葉のふちが巻いて、針状になる。別名ビロードシバとも呼ばれる。



モクビヤッコウ

常緑低木。全体に灰白色の毛が生え白っぽく見える。葉はちぎると匂いを放つ。



ソナレムグラ

多年生草本。波しぶきをかぶるような場所に生える。5ミリほどのとても小さな花が咲き、葉は肉厚で無毛。



クサスギカズラ

つる性多年草。枝が杉の葉のように見える。芋のように膨らんだ根は生薬に

なる。



アオガニヒ

常緑低木。紙の材料として皮をはい

る。乾燥させ、お金に

変えた。



ナンゴクハマウド

多年生草本。草の汁で魚が仮死状態になるので魚捕りに

使用していた。



イリオモテアザミ

多年生草本。根はゴボウのようにきんぴらにし、若葉は天ぷらに。肝臓や腎臓の薬としても使用。

サンスウギ



ヒメキランソウ

多年生草本。地上を這うようにして広がり、地面を覆いつくす。花が咲く時期は地面が紫色のじゅうたんのようになる。ピンク色もある。

ポーギー



ヒレザンショウ

常緑矮性低木。葉を揉むと強い香りがある。種は咳止めに。葉や実は臭い消しや毒消しとしてさかなじる魚汁に入れたり、刺身に添えた。

マッコーギー



クロイゲ

常緑半つる性低木。小枝の先はとがる。果実は熟すと黒紫色になり甘く美味しい。子どものおやつになった。



ハリツルマサキ

常緑半つる性低木。クロイゲに似るが、葉の厚さや色が違う。実がハート形になる。



人との関わり ススキ

ススキは建材をはじめ、燃料、肥料など、いろいろな物に利用される貴重な植物です。宮古では一般的に小さいススキを力や、大きなススキをギスキーと呼び分け、それぞれに用途が違います。



ススキの穂で
作ったぼうき



カヤで作ったマグ

ギスキー ← 呼び分けて
使っていた → カヤ



ミーギスキー
葉が幅広く高さは
5mほどになる



ビキギスキー
葉や芯は細く小さい
トゲがしっかりしている

縄をなう用の細い柔らかいススキは、「ツカニ」とも言う。

棟の部分はギスキーを編んでからかぶせた



壁はギスキーを使用



宮古の昔の住居：宮古島市総合博物館内

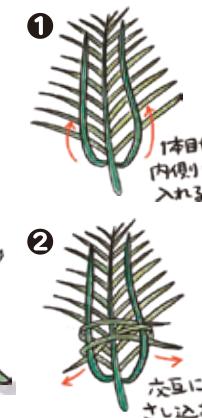
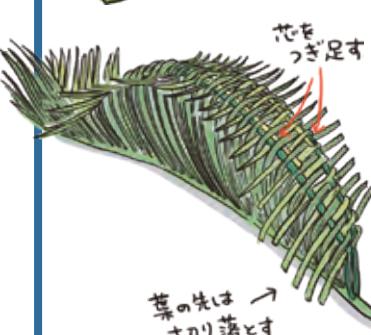
人との関わり ソテツ

ソテツは裸子植物と呼ばれるイチョウやマツの仲間です。日本のソテツは一種類で、日本固有種とされています。実や幹には毒があり、適切に処理をしないと中毒になったり命を落とすことがあります。食べ物がない時代に毒のあ

るソテツまで食べたとして「ソテツ地獄」という言葉が知られていますが、琉球王府の時代には食糧として植林をしており、毒を抜いて食べることは日常でした。いまでも奄美地方ではソテツから味噌が作られています。



虫カブのつくり方



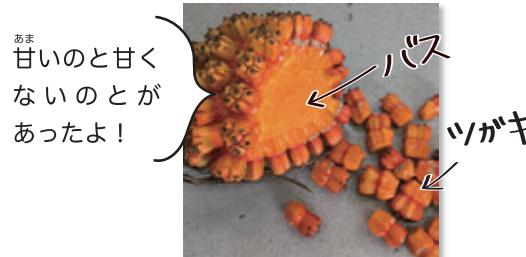
潮風や台風に強く、岩場にも生えるから、防風林や畠などの目印に使った。

葉や幹は燃えやすいので薪に使った。

幹や実は、発酵させて毒抜きをし、おかゆや団子をだんごして食べた。

ひとのかか 人との関わり アダン

宮古では、日々の生活の様々なところにアダンを利用していました。実を食べ、煮炊きの薪として使い、草履や縄、カゴなど農作業の道具、家の材料として、余すところなく使いました。



大きくて芯がみずみずしい
ミズアダン



家の柱、洗濯物を干す柱にした
干す柱にした

小さくて硬い
石
イスアダン

イスアダンの幹で作った釣道具のカウ

アダンバ

アダンバでバッタ

アダンバで風車

アダンバで帽子、カゴ、ゴザなどなんでもつくった

枯れた葉・幹

ある程度濡れてもよく燃えた

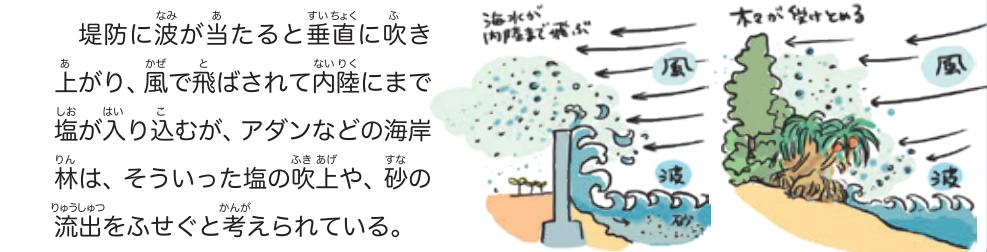
合戦の弾はアダンの実

海岸の木々は堤防よりもすごい！？

堤防に波が当たると垂直に吹き上がり、風で飛ばされて内陸にまで塩が入り込むが、アダンなどの海岸林は、そういう塩の吹上や、砂の流出をふせぐと考えられている。



常緑小高木。幹はよく直立し、支柱根は少なめ。樹形が美しいので街路樹などに植栽される。



島尻散策コース(塩湿地)

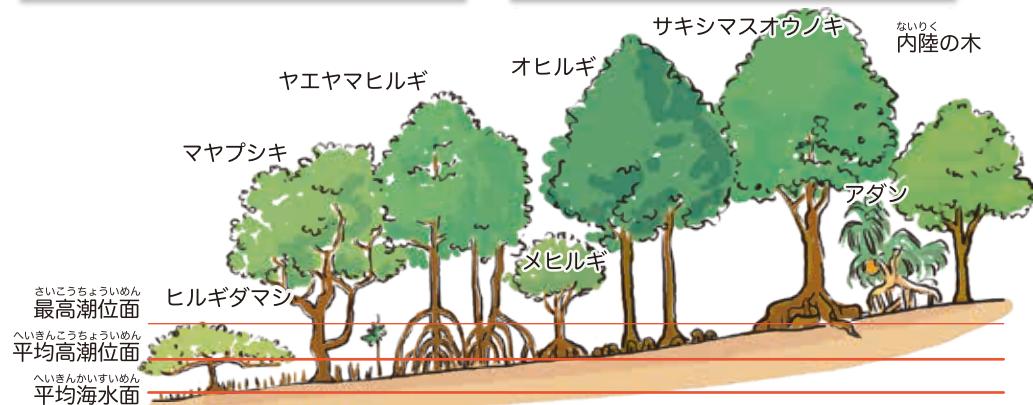
きより おうふくやく しょよう じかん とほ
距離: 往復約900m 所要時間: 徒歩約15分



塩湿地の環境

塩湿地とは、満潮時に海水が入り込んでくる湿地のこと、海水と淡水が混ざりあう水域です。そのような環境に生育する植物の総称をマングローブといいます。島尻マングローブ林は、島最大の群生地で、宮古を分布の北限とするヒルギダマシを含め、ヤエヤマヒルギ、オヒルギ、メヒルギの4種を見ることがで

干潮と満潮では全然見え方がちがう！



マングローブの見分け方

植物名	メヒルギ	オヒルギ ア別名 カバナヒルギ	ヤエヤマヒルギ シ別名 バナヒルギ	ヒルギダマシ	ヒルギモドキ	マヤプシキ	
分布	鹿児島(かごしま) 奄美大島(あまみ) 沖縄島(おきなわ) 宮古島(みやこ) 石垣島(いしがき) 西表島(いりおもて)	鹿児島(かごしま) 奄美大島(あまみ) 沖縄島(おきなわ) 宮古島(みやこ) 石垣島(いしがき) 西表島(いりおもて)	鹿児島(かごしま) 奄美大島(あまみ) 沖縄島(おきなわ) 宮古島(みやこ) 石垣島(いしがき) 西表島(いりおもて)	鹿児島(かごしま) 奄美大島(あまみ) 沖縄島(おきなわ) 宮古島(みやこ) 石垣島(いしがき) 西表島(いりおもて)	近年確認できていない		
樹高・根ね	7~8m 板根	約10m 膝根	約10m 支柱根	1~2m 呼吸根(筍根)	2~10m 根は出ない		
葉・大きさ	まる丸い 卵型 約10cm 卵型	ややとがる 厚みがある 約13cm 厚みがある	とがる 葉の裏は灰白色 約13cm 葉の裏は灰白色	うら かいはくしょく 4~8 cm 葉の裏は灰白色	くぼむ 3~7 cm 葉の裏は灰白色		
花・開花時期	初夏 初夏	春 春	春~夏 春~夏	5 mmほど 夏	2~6 cm 6~12月 夏		
果実または種子	20cm前後 すべすべ 細長い 3~4月 細長い	20cm前後 5~6月 細長い	20cm前後 太くて 大きい 7~8月 太くて大きい	うさんぶ 浮いて散布される 1.5~2.5cm 9~10月 うさんぶ	約1.5cm 7~9月 うさんぶ		

参考：NPO 法人おきなわ環境クラブ『おきなわ自然環境ガイドブック①—漫湖の自然と環境—』(2000)

マングローブのやくわり

- 根や幹に生えている藻類などがエサになる
- 海岸浸食の進行を防ぐ
- 畑から流れ出る赤土を受け止め、サンゴ礁をまもる
- 台風や津波の波を和らげる
- 海水に溶け込んだ二酸化炭素を吸収し、
地球温暖化対策になる

一見汚く見えるけど…
浅くて流れがなくて濁んでいるのがいい？

- 稚魚や小さな生物が流されない
- 天敵の鳥などから見えにくい
- 大型の魚が入ってこれない
- プランクトンがたくさん
- 紫外線を防ぐ

島尻マングローブと池原干潟(与那覇湾)のいまむかし

国土地理院の地図を見比べると、島尻は陸地化が進んでいます。与那覇湾西側の池原干潟は1990年に埋めたてられ、全てのヒルギ類が消失しました。



※国土地理院のウェブサイトの写真を加工して作成

池間湿原散策コース(陸水)

距離:約5.3km 所要時間:車で約75分



ケミズキンバイ

沖縄県RDB:絶滅危惧Ⅱ類
環境省RD:絶滅危惧Ⅱ類

多年生草本。国内で

沖縄県でのみ見
られる希少種。茎は
水上に浮かび、呼吸
根と根を水中にの
ばす。



ヒメガマ

抽水性の多年生草
本。葉で筵や蓑を
作った。子どもたち
はアイスケーキギー
と呼んでいた。



フトイ



根とは別の
呼吸根を
出すことも。
浮きの役割
もある。



水から飛び出している
植物をさす



茎が空洞
なのは...
・空気をためて呼吸
・浮きがわり
・体を支える



抽水性の多年生草本。
世界各地の湿地で見ら
れる。茎はストロー状
になっており、葉は退
化している。

陸水の環境

淡水で生育する植物は、その総

称として湿性植物や水生植物と呼
ばれ、宮古では池間湿原や崎田
川、ため池や湧水地周辺などの限
られた場所でしか観察できませ
ん。県内最大の湿原とされる池間

湿原は、もともとは海とつながっ
ていましたが、昭和の初め頃に農
地にするために干拓されました。

その後淡水化が進み、今よう
な環境になりました。湿原には
様々な動植物が生息・生育してお
り、環境省の「重要湿地500」に選
定されています。また、渡り鳥の
貴重な休息地および繁殖地となっ
ているため、2011(平成23)年に国
指定池間鳥獣保護区に指定されて
います。



抽水性の多年生草
本。池間湿原で比
較的かんたんに見
ることができる。